

今年2月中旬、待ちに待ったEV(Electric Vehicle)がわが家に来ました。日産リーフ・タイプG、排気ガスが出ない電気自動車です。

この車へのアプローチは、口頭で先行予約を申し込んだ昨年3月に始まります。4月に書類による予約申込、7月には予約申込の最終意向確認、10月仮注文、そして12月に正式契約の手順を経てやって来た車です。

日産リーフは、電気自動車の一つの車種として「環境負荷の少ない車」、「エコカー」、「次世代カー」などと新聞、テレビなどで紹介されています。

電気自動車というと、ついつい子供の頃に遊園地で乗ったものや、屋外型リゾート施設の園内移動用の車を想像してしまいます。

しかし、従来の技術の延長線上ではなく、新たなカテゴリーとして技術開発され量産車として完成された自動車は、従来のガソリン車やハイブリッド車と外観は同じ車の範疇に入るものの、全く異なった世界を創り出しています。

電気自動車はその名のとおり、ガソリンを使わずに100%電気だけで走ります。バッテリーから供給された電気でモーターを回し、その力を車輪に伝えて走る仕組みです。この車の動力源となるバッテリーの充電が、ガソリン車での給油に当たります。この充電は自宅なのですが基本ですが、外出時には充電スタンドで補給します。

ガソリン車での燃費に当たるのが「電費」です。「電気1kWhで何km走るか」ということです。現在の平均電費

は12km/kWhですので、1km走行あたりの電気代は約2円です。

走るときはスイッチをONにします。しかし、運転席に座っている状況は、メーター類とナビゲーション・スクリーンが点灯表示される以外には何の変化もありません。つまり、プルン、ギュウーンというエンジンスターートの音も振動もありません。そして、マウスのようなシフトスイッチを操作してアクセルペダルを踏むと、静かに走り出します。当然ですが、走行中も静かです。走行といえば、駆動モーターのパワーがすごいことに驚かされます。加速性能は3リッター並みです。

最後にIT機能に触れておきます。

車に搭載されている通信ユニットを使った情報通信が楽しく、また実用的です。充電スポットを検索したり走行状態を確認したりといった、運転中にリアルタイムで出来る機能は従来通りです。これに加えて、パソコンや携帯電話を介して、車から離れていても、現在の車の状況確認をはじめ充電やエアコンの操作、ドライブ計画の転送、走行・電費データの蓄積と世界中のリーフとの比較、点検・整備の計画と実績の確認などをすることが出来、自分のPCネットワーク内にマイカーが位置している感覚です。

セカンド・カーを乗り替えて始まったEVライフですが、趣味のドライブ、旅行、テニスを楽しむ中で、世界的なゼロ・エミッション・ビークル(ZEV)プログラムの流れに加わっているのだという気持ちに満たされています。



記念撮影



充電装置



マウスのようなシフトスイッチ

メーター